

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400037		
法人名	社会福祉法人 柵野福祉会		
事業所名	グループホーム四条大宮		
所在地	京都府京都市下京区大宮通綾小路下る綾大宮町52番地		
自己評価作成日	平成27年6月29日	評価結果市町村受理日	平成27年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajgokensaku.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;KjgvoVoCd=2690400037-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kajgokensaku.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;KjgvoVoCd=2690400037-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1 「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成27年7月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の生活のリズムを大切に、それぞれに合った個別支援を実施するように努めています。京都の中心部で四条大宮駅から徒歩5分以内、周辺には商店や食事処が点在しており、気軽に買い物や外出に出掛ける環境が整っています。ホームの中のみで支援するのではなく、出来る限り外に出掛け、他者と関わる機会を設けています。また、ご家族との関係の継続についてもどうすれば実現できるか案案しながら取り組みを行っています。母の日のカード、敬老会(しゃぶしゃぶ)、忘年会(蟹すき)は恒例となっています。馴染みの職員となることが利用者様が落ち着いて過ごす為に重要であると考え、職員の希望や関係の調整、教育について考え、継続して働きやすい職場を目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大宮通りに面した7階建のビルにグループホーム四条大宮(以後ホームという)がある。建物の前は交通量が多い。エレベーターで2階のホームに立ち入るとアットホームな和やかなリビングが見渡せ、利用者と職員が体操をし和やかな会話が交わされている。当ホームの今、力を入れている点は、職員のチームワーク・地域との馴染みの関係・家族との関係づくりである。職員チームの連携なしにケアの充実や職員の働きやすさに繋がらないと、利用者一人ひとりのケアの充実と共に職員一人ひとりの働きやすさを追求し、職員定着に成果が出ている。開設来地域との交流もあり、定期的なボランティアの来訪を利用者は楽しみにし、外出時の応援もしてもらうことがある。町会長の地域行事等への呼びかけもあり心強い。ケアプランは、生活の楽しみを大切に立てられ、個別レクでは行った先々で、かつての利用者を彷彿とさせる振舞いに職員は利用者の普段とは異なる側面を発見し理解を新たにしている。年2回の家族懇親会は甥・姪・きょうだいの参加もあり鍋を突きあつての交流が恒例化している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“笑顔と信頼を大切にあなたらしい生活のお手伝い致します”という事業所理念のもと本年度の目標を“職員全員が信頼しあえる1つのチームとなって利用者一人一人を大切にしたいケアを実践する”とし心掛けています。また、常時職員トイレに掲示しいつでも確認できるようにしています。	事業所理念を踏まえ設けられた目標は「チームワーク」である。特に情報共有に力を注ぎ、ホーム独自の3冊のノートを設け、利用者や運営面の気付きについて各職員が随時記入を習慣化し、各利用者の個別ケアや、運営業務に活かしている。また日常業務営面に関する、職員アンケートをとり、仕事の充実感や働きやすさを追い求め、職員の定着率向上につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟し、地域行事に毎回参加しています。また、事業所行事の案内を回覧板で報告し、参加してホームの事を知っていただく機会を作っています。	町内会に加入し回覧板に納涼祭や開所記念行事の案内を載せ、一町会員として馴染みの関係が出来ている。地元在住の職員から、地元情報や近所の人達との関係も築け、地元のボランティアによる定期的な来訪や、ハーモニカ演奏、おしゃべりを楽しみ、ホームの外出時の応援も得ている。月1回向いのコンビニの出張販売が玄関ホールであり、自由に買い物ができる楽しみもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ1度ではあるが、認知症サポーター研修のファシリテーターとして地域ケア会議に参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームで発生した事故や行事について報告しています。地域の方からは、さまざまなアドバイスや地域の情報を教えていただき、サービスにつなげています。次回より研修や職員の紹介等も内容に加えていく予定です。	会議メンバーは利用者、家族、自治連合会長、町会長、包括支援センター職員である。参加者の質問からグループホームの生活・職員紹介・研修等の関心に応える情報提供の必要を管理者は感じている。また会議の場での家族の発言を広報に掲載することもあり、議事録は読みやすくまとめ「運営推進便り」として家族に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	下京区役所へ運営推進会議での内容の報告を定期的に行い、市役所へは事故報告を行っています。	役所の所管には運営推進会議の会議録を届けている。島原圏域4学区地域ケア会議に参加はしているが、地域の関係機関との関係づくりには不十分さが否めず今後の課題とされている。	地域包括ケアの一翼を担う事業所として、啓発活動を含め、関係機関との連携の構築を期待する。

京都府 グループホーム四條大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルをもとに勉強会を実施し、普段の支援で自分たちが知らないうちに身体拘束を行っていないか等を振り返り、ケアの改善に努めています。	センター長の発案で、指針を新たにし取り組みの強化を図っている。研修は指針に沿って日々のケアを点検すると共に、モニタリング時に拘束関係の有無を確認している。現在、視力・聴力障害を持つ利用者のリスク回避を目的にセンサーマットの使用について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアル、権利擁護マニュアルをもとに事業所内で研修を行い、職員間で意見交換を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を実施し、ご家族からの相続や管理等のご相談の際には、制度についての説明や相談窓口等の紹介等を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間を確保していただき、出席していただける方全員に説明を行っています。利用料金等改定時は説明を行い、同意書をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老行事と忘年会はご家族にも参加していただけるよう行事を企画し、1日ゆつくりと利用者・家族・職員で話ができる機会を作っています。また、そこで得た情報について会議で検討も行います。	職員提案で年2回家族と会食・懇親会を設けている。家族間の情報共有・職員と家族とのコミュニケーションの機会となり、家族・職員共に普段聞けない話が聞け、意思疎通がし易くなった。他の家族の話が聞け安心できたと好評である。一方、毎月利用者毎の写真、ケアプランの実施状況を記した「便り」を各家庭に送り、情報交換がし易い関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のコミュニケーションや連絡ノートで意見を表せる機会を作り、必要に応じて職員会議で話し合いを行っています。管理者会議では法人内のグループホームの管理者、センター長が出席し、意見や取り組みについて情報交換や業務改善を図っています。	年2回のアンケート、職員会議、諸会議、日常のコミュニケーションの中から職員意見や提案の確認を管理者はしている。中でも仕事のモチベーションにも繋がるものと、休暇希望を100%充足すべく調整し年休も同様、各人の希望を確認し極力添えるよう工夫している。幸い開設来の職員の定着率は高い。研修は職員の興味関心を重視し、常勤・非常勤の別なく研修情報を紹介し受講を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人のDo-CAPシートによる自己目標やチーム目標を策定し、個人面接を行い目標達成に向けてのプランを話し合っています。また、パート職員には年2回アンケートを実施し面談を行っています。		

京都府 グループホーム四條大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内研修を開催し、チームでのサービスの質の向上に努めています。法人本部の研修や外部研修へも個々の能力に応じて参加し、資格取得の勉強会にも多く参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型居住系委員会に入会し、定例会議や研修に参加しています。他のグループホームを見学する機会もあり、各職員何かを持ち帰り意見交換が来ています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活について十分に情報収集を行い、日常で新たな情報を得た場合は記録し、ケース会議で周知している。また、入居前と出来るだけ環境の変化を少なく、今まで通りの生活が出来るよう要望を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係者の方のご意見を伺い、ご家族との関係継続の為に定期的な自宅への外泊をしたり、お稽古の継続等も出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の関係者からも情報収集を行い、家族、本人の希望を伺った上でグループホーム以外のサービスについても説明しています。また、必要に応じて医師や看護師の意見も確認しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事を一緒に行い、どうしたいか、どうすれば上手くいくか等もやりやすい方法について教わるという姿勢を大切にしよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支援していく姿勢を大切に、支援内容について相談、同意を得たうえで実施するようにしています。通院については出来るだけ家族に行ってもらい、食事をしたり、行事等に参加して頂ける様機会をもうけています。また、面会時に気持ちよく過ごして頂ける様に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のお稽古の先生に来て頂いたり、一緒に食事に行く機会を設けています。また、毎年個別レクリエーションの行事を企画し、普通っていたお寺や食堂等に行き懐かしみ、顔見知りの人と会う機会を作っています。	馴染みの人・場所については普段の会話から拾い上げることが多い。月1回息子の迎えで週末を自宅で過ごし、明るい表情でホームに戻って来られる人。お墓参りの際は檀家として挨拶される姿。旧知の食堂店主との弾む会話。買い物ついでに弟宅に立ち寄り食事を共にされ戻られる人等、職員は利用者の普段にない言動に出会い、新しい発見をし支援に活かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係も構築され、好き嫌いがあるものの、外出先では助け合い、仲良くしている様子もある為、その機会を設け大切にしています。また、座席の工夫をし、ストレスが溜まらないよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	26年度は退去者がいませんでしたが、過去には医療機関や家族との関係をつないだり、要望に応じ写真を現像してお渡しする等出来る限りの支援をしていました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者の好きなことの把握に努め、希望を出来る限り支援しています。朝食時にハムがほしい、卵がほしい、牛乳が欲しい、等一人一人違う支援をしています。また、職員と1対1で馴染みの場所に出掛けることで新しい一面や意見を聞く事が出来ています。	入居に当っては、入居前との環境変化を少なくした生活が送れる様に利用者・家族の意向把握に努めている。家族にセンター方式の情報シートを渡し利用者情報の記入を依頼している。記録は法人のグループホーム共通様式の「情報収集シート」を使用し、生活歴はじめ生活状況、趣味、嗜好等の詳細を記入し職員も随時追加情報を記入し計画立案に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集シート、課題分析表、サービス計画書を用いて各利用者の勉強会を1年に1回実施しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活のペースを重視し、起床時間やゆっくりしたい時間、何かをしたい時間等職員のペースにならないように心掛けています。		

京都府 グループホーム四條大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録を月ごとでまとめ、毎月モニタリングし、ケース会議、職員会議で周知、支援方法の検討をしています。また、家族とのやりとりを引き継ぎノートで確認し、意見やアイデアについても記入するようにしています。	情報収集シートやケアプラン策定のための課題分析表を基に介護計画書を作成している。サービス担当者会議は遠方の家族も最低1年に1回参加を得て利用者・家族・計画担当者・介護士にて行っている。介護計画は実施モニタリング表で毎日チェックし、月1回まとめたケアプランチェック表を下に再度モニタリングを行いケース会議や職員会議で検討・確認し共有を図っている。介護計画の見直しは管理者が3ヶ月毎にモニタリングを確認し、見直しの是非を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化もケース記録に残すように努め、気になる事や相談については利用者ノートに書いて把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が通院予定であったが間に合わない場合は途中まで支援したり、外出している際に突然の面会があった際は外で待ち合わせと一緒に喫茶に出掛けたり、ホームに戻ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	好みの美容室やスーパーや商店、近所の喫茶店等に出かけ、地域の方との交流を図っています。近所の方が月に1度ボランティアに来て下さり、地域のお祭りに出掛けた際は、顔を覚えていてくださり、椅子を貸していただくこともありました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望を確認し、かかりつけ医や病院、緊急搬送先を決めていただいています。内科、歯科、皮膚科の医師が定期的にホームに往診にきてくださっています。また、希望の往診医があれば受けられるように支援しています。	月2回、内科医の往診に全員が受診している。並行して専門医療機関を受診している利用者もある。外来受診は原則家族が同行している。現在看護師が欠員になっており、日常発症例の多い15種類の緊急時対応フローチャートを医師に相談し作成し発症時の対応に備えている。状況によっては併設の有料老人ホーム看護師に相談をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師はいませんが、状況別にフローチャートを作成し、緊急に必要な際は併設している有料老人ホームの看護師に相談を行えるように連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はご家族や病院との間に入り、連絡や報告、相談等の連携を図っています。入院中は面会に行き、状態の変化等の確認や、ご家族やご本人の相談に対応できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取り時の対応についての指針を説明しています。状態変化時はご本人・ご家族の意向を再度確認し、医師と連携し、意向にそえるよう取り組んでいます。	指針については現在見直しをしている所であるが、利用者の平均年齢が90歳と高齢化し、ターミナルに向けた研修を職員全員で学び共有を図っている。家族も関心があり運営推進会議でも発言されている。現在までに看取り実績はない。家族には年1回意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに基づき、研修を行っています。職員会議では事故発生時の初期対応や医師・看護師への連絡の必要性について振り返りや検討を行っています。また混乱せずに対応できるように全員が解る場所にファイルを設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や防災研修を同一建物内の事業所と合同で実施しています。地域との協力体制については出来ておらず、今後実施していけるようにしていきたいと思っています。	訓練は併設事業所と年2回実施し内1回は夜間を想定し実施している。今年度はシェイクアウト訓練を行い利用者の動きを確認する機会になった。防災に関する地元との連携は現段階ではなく、学区単位の防災訓練への参加を検討している。備蓄は水・食糧を3日分確保し、交換時期には日常の献立の中に防災食を取り入れ利用者と一緒に味わっている。	災害対策には地域との協力体制の構築は大切である。防災訓練を運営推進会議に合わせ実施し見学の機会を設け、議題に地域との関わりを取上げ意見交換されてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守れるように心がけています。特に大勢の方がいる食堂での言葉かけや対応については、十分に注意を払うように努めていますができていないこともあります。	法人全体の課題として取り組まれている。ホームは法人マニュアルを基に、何気ない声掛けにも気を配るように意識し、ホーム独自事情に合わせ点検している。広報紙の肖像権の扱いでは本人・家族・友人にも同意を得ている。広報紙等の個人情報の取り扱いにおいては同意事項を一覧にし職員全体で点検し周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意見を主張する方が多く、会話や行動、表情等から思いをくみ取り出来る限り希望に添えるよう努めています。表現するのが難しい方にも声掛けやコミュニケーションを多く図るよう意識しています。		

京都府 グループホーム四條大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無意識に職員のペースにならないように声を掛け合って意識するよう努めています。時間をずらして頂いたり、待つ頂く事もありますが、外出等も希望がある時に出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は普段と違うものを着ただけのように声を掛けたり、口紅を引いたりしています。声を掛けると自ら更衣しに戻られる方も多く早めに声を掛けて待つ時間を設けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けは出来るだけご利用者も一緒にしていただいています。味見をしてもらい、味付けを教わったり、ドレッシングやソースは好みの物を選んでもらいます。雑誌を見て食べたいものを聞いて、献立にも取り入れています。	献立は利用者の意見を聞き、週献立を基に主食材は発注し、鮮魚等は近所の店で購入し利用者や買物に出かけている。行事の後は仕出しを頼み変化を楽しむ工夫もしているが、手作りの食事提供を基本にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を事前に2か月分作成し、管理栄養士に確認してもらい、偏りが無いかなどアドバイスを貰っています。糖尿で制限がある方や低栄養で食事の機会を工夫する、覚醒時間が不規則な場合は夜中に食事を作るなどにも対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用週に2回義歯の洗浄を実施しています。自立の方については毎日の口腔ケアの声掛けは実施していますがなかなか毎回の確認できていません。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくリハビリパンツを使用しないように排泄用具を状態に合わせて変えています。声掛けの回数を利用者に合わせて変えるだけで失禁の回数が減らせるため、一人一人の排泄パターンに合わせて声掛けや誘導を行っています。	各部屋にトイレがあり、居室内故に排泄把握が難しい点もあるがプライバシー面、介助面のし易さを実感している。排泄パターンを基に対応している。入所時リハビリパンツを使用し皮膚疾患があった利用者が、布パンツに替え皮膚疾患が改善された例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ごとに薬だけでなく毎朝牛乳を提供する、ヨーグルトを提供する、スムージーを提供する、飲むヨーグルト提供するとその人に合わせて分けています。排便が困難な場合の対応について可能性のある方については事前に医師の指示を仰ぎ排泄コントロールできるように努めています。		



京都府 グループホーム四條大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の予定は立てていますが、時間については当日に希望をお聞きし、遅めがいい等の希望に添えるよう対応しています。また、今日は嫌等の希望があれば入浴の日を変更しています。	入浴は最低週2回を守り、希望があれば対応している。お風呂好きな視力障害を持つ利用者には、お風呂での会話を大切に回数・内容等をケアプランに入れ支援している。他にリビングで足浴をしたり、清拭するなど利用者の体調に合わせ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間1人でいるのが不安な方はリビングで休んでいただいたり、入眠されるまで傍にいる等の支援をしています。また、寝る前に不安を残さないようにその時その時必要な対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し各利用者が何の薬を内服しているかや注意点等がわかるようにしています。内服変更があった際の観察や注意についても情報を共有し、月1回薬局との情報交換も実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事をしていただいたり、趣味や興味のあること昔からの習慣をホームでもすることができるよう環境作りを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のボランティアさんやご家族も一緒に大勢で出かけたり、行きたい場所を聞いて個別に外出したり、好きなものを食べるに外食する等、一人一人の希望に応じられるよう外出支援を行っています。	馴染みのボランティアさんや、家族、友人達との行事外出や個別外出を行っている。ホームのビルの前は歩道・車道とも交通量が多く、神経を使いながらの外出となるが日常の外出先に近所の神社や買物に出かけている。	ビルの敷地の一角に狭くはあるが野菜・花が植えられ、ベンチも置かれている場所がある。この空間を外気浴等の場所として有効活用されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金への不安がある方は、管理が難しくなってもご家族に協力していただき所持していただいています。支払いの手伝いや、残額を確認しご家族への連絡等の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人への電話の発信や着信時の取次、携帯電話の操作説明等を行い、外部へ気軽に連絡できるよう支援しています。		

京都府 グループホーム四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう、毎月利用者と一緒に折り紙などで壁紙をご作成し、廊下に展示しています。食堂はオープンキッチンで食事作りの心地よい音やにおいがあり、昔懐かしい歌や心地良い音楽が響いています。	エレベーターを降りると木彫の表札が目に入るホーム玄関があり、明るく温かい雰囲気のリビングが広がっている。季節感のあるちぎり絵や似顔絵、折り紙が壁面や棚に飾られ、廊下の壁に「長寿の心得」が墨字で書かれ貼られている。室内の利用者の表情は穏やかで職員との会話も弾んでいる。テーブルを囲み談笑している人、ソファでくつろいでいる人が見かけられ、居室で過ごす人は少ないとのことである。温度・湿度計で室内は調整され、外の喧騒は遮断されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでもゆっくり過ごしていただけるようソファを置いています。また廊下にもソファやテーブルがあり、アルバムや本などを準備し、部屋以外でも、ゆったりと過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの物や愛着のあるものを持ちこんでいただき、利用者・家族・職員と一緒に相談しながら、その人らしい部屋作りを行っています。	居室は、トイレ、洗面台が各室に設けられ、馴染みの家具、仏壇、写真等が持ち込まれている。利用者の身体変化により布団からベッドに変えている人もある。利用者・家族・職員で相談して配置に工夫をし、個性が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	意識的に手擦りへの誘導を行い自分で安全に移動して頂けるように支援しています。		